

## 第二部

### 奈良支部創立60周年記念事業

- 1) 記念講演会
- 2) 奈良支部会員による記念講座
- 3) 英字新聞、雑誌を読む会

# 奈良支部創立60周年記念講演

●講 師：安田順恵氏

●演 題：私のワーク・ライフ・バランス-生涯輝いて生きるために-

平成21年6月27日(土)、佐保会館大ホールにて行なわれました。

以下にレジメを紹介します。

## 1. 人生のモットーについて

今迄そしてこれからも次の5つをモットーとして生きていく。

① 周りの人を尊敬する心を持つ ② 総てのことに感謝する ③ 神仏など目に見えない物を敬う心を持つ ④ 慈しみあうこと ⑤ 許しがたいことも許す心(心の中で解決する)。  
そして1つの目標を目指してそれを実現するために努力するのも1つの生き方であるが、安田さんの場合はその時々遭遇する事柄に全力投球することにより、その後に道が出来てきたと言える。しかし全力投球することにも何に懸命になるかと言うことが大切で、常に一流を目指すと言うことが大切である。

## 2. 奈良女子大学100周年記念行事に協力して

文学部の部で卒業生の展示が行なわれ 選出された4名の中の1人に選ばれその他3人の方の紹介をされた。

丸岡秀子氏：1903年90歳で死去、奈良女高師出身で女性の地位向上に努めた。多くの著書がある。

長谷川テル氏：(1912年生まれ) 奈良女高師3回生で中退、日中戦争で反戦運動をする。エスぺラント活動を通して中国人と知り合い結婚、3人目の子供の出産時37歳の時に死去した。

小倉遊亀氏：(1895年生まれ、2000年に105歳で死去)

1917年奈良女高師卒、教師をしながら絵の修行を行なう。院展に入選後多くの作品を残し文化勲章を受ける。安田さんは学生時代から新聞部員の時小倉遊亀氏とかかわりがあり、人生の師匠としてその後絵や人生の指導を受けるに至る。その他のエピソードとして小林古径の記念塔を薬師寺に建立する時に、多くの画家に混じって小倉遊亀氏も来られて始めて面会し絵の指導を受けることを承諾して貰う。その後薬師寺白鳳伽藍復興に伴い、天武天皇像の作成を依頼奉納することを承諾してもらう。天津皇子、持統天皇、天武天皇の三神像が奉納され昭和天皇が来られて拝礼された時の話を披露された。

また奈良女子大学の80周年記念の時佐保会から講堂の緞帳を寄贈することになり、小倉遊亀氏が女子大校舎の窓から原画を描き川島織物に依頼した時のお話など、若い時まだ実績が無い人も将来性を見込んで大切にしなければならないと話された。

### 3. 学位（博士）授与について

大学卒業時には卒業後はすぐに大谷学園の教師になることが決められていたこと等から、進学は考えられなかったが、奈良女子大学にも2000年に社会人入学の制度が出来、当時の丹羽学長の勧めもありまたシルクロードに関する研究ができそうなことから、マスターコースへ入学し続いてドクターコースへ進み5年間で「玄奘取経の交通路に関する地理学的研究－CORONA衛星写真と現地踏査を基に－」で文学博士号を受けられた。若い学生に混っての久しぶりの学生生活もいろいろ感じる所があったようで、今後の同じような道を目指す方たちの参考になるのではないかと話された。玄奘三蔵が仏教の神髄を目指して国禁を犯してインド迄行き、17年間をかけて中国長安迄戻ってきた道筋をたどる研究は現在迄続いている。

### 4. その他

教職にもたずさわりながら、27年間奈良地方・家庭裁判所調停委員も勤められたこと。オバマ大統領が人種差別を克服して大統領になれたことに関して、マイケルジャクソンなど黒人の先駆者とその壁を低くしたこと、またオバマ氏がエジプト旅行でルーツを尋ねた話、オリンピックには3種類ありその1つのスペシャルオリンピックスの奈良の会長を勤めていることなどまだまだ話し足りないご様子であった。

上記のレジメにみるように多岐にわたるエネルギッシュな活動を、当たり前のように気さくに話されたことに安田さんの行動力と人間の大きさを感じ、聴衆に大きな感動を与えた。大学女性協会奈良支部の記念講演として相応しいものであった。



会場風景



奈良女子大学 箏曲部ミニコンサート

# 大学女性協会奈良支部会員による記念講座

- 日 時：2009年10月24日（土） 13時30分から16時迄
- 場 所：佐保会館大ホール
- テーマ：「住生活の改善」-高齢期の住み方について-、同演習
- 講 師：関川千尋氏（奈良支部会員、京都教育大学名誉教授）

大学女性協会奈良支部では、上記の内訳で講演会を開催した。

開催会場は、佐保会館大ホールである。当初、10月から11月にかけて土曜日の午後、2回の予定を立てていたが、会場確保や、他の行事開催などとのバッティングで、1回でまとめることとなった。参加費を払って参加していただいた方が、7名であった。各人の希望と講演内容とのすり合わせも必要と考え、参加希望者の年齢等を窺がったところ、大学女性協会のメンバーで、年齢は、60歳後半から70歳前後の方々ということであった。講演者としては、じっくり対応させていただき積りで一連の講演と、同演習をおこなった。

講演概要は以下のとおりである。

はじめに：自己紹介など

## I. 高齢期の住み方を述べるにあたって

### 1. 国内・国外でみた「高齢期の住生活」の多様性について

#### その1. 高齢期に持家に住み続けるシステム

子や親族等との同居<sup>1)</sup>\* → 伝統的住み方（\*は演習課題<sup>1)~4)</sup>に対応する）

自律的老後と“リバースモーゲージ”制度 →（参考文献1）

自律的共生システムLSAや（フランス）ガルディアンのある“高齢期型持家共同住宅”<sup>2)</sup>（借家でも同様）→（参考文献2、3）

#### その2. 借家型・社会的共同住宅に住み続けるシステム

小規模独立住宅<sup>3)</sup>や共同居住（借家型）での共生や夫婦での居住：東京都の例・神戸市震災復興住宅（小規模グループホーム・片山住宅などのコレクティブハウス<sup>4)</sup>）→（参考文献4、5、6）

（LSAや公共料金での雇い上げガルディアンの配置がある）

ウィーンの中規模高齢者住宅ハウスマルガレーテンについて →（参考文献7）

大規模高齢者住宅タイプ（近年は少ない／法律上でも、人の普通の居住環境に近づける意味もあり小規模化がその方向である）。また可能なかぎり現実の「街」で住生活をして、終末期をできるだけ短くする住み方→時代の流れとして定着してきている

2. この講演の視点をどこに据えるか? → いくつかの条件つきで(講演者)の見解で決めた。
3. 「高齢者が生活しやすいー高齢期の住み方ーについて」を述べる前提として、次のことを考えている。

\* 高齢期の住生活が滞りなくできるための現代的必要条件として

- 1) 年齢相当に健康が保てている。
- 2) 一定の経済的生活条件が満たされている。
- 3) 持家・借家を問わず、自分の基準に基づいて住む場所・住宅がある。
- 4) 公共・民間に係わらず、高齢者の毎日24時間の住生活をサポートする見守り体制が整っている。
- 5) その他などである。

\* これらが、前提となって初めて、具体的な「高齢者が生活しやすいー高齢期の住み方」について考え・話すことができる。

#### 参考文献：

- 1) 住信基礎研究所 村林昭次・山田ちづ子 編著：超高齢社会の常識リバースモーゲージ 日経BP社 1997(原タイトルのまま)
- 2) ジャン＝ルイ・ドクール (関川千尋訳)：初期の管理人小屋ー19世紀のパリとパリのコンシェルジュー 創英社/三省堂書店 2008
- 3) 関川千尋：フランスにおける都市集合住宅に内包される伝統的生活サポシステムに関する研究 文科省科学研究費補助金基盤研究報告書 2008
- 4) 高齢者とまちづくり研究会：まちづくり読本①高齢者とまちづくり 風土社 1997
- 5) 関川千尋：罹災家庭の住生活と『住居費』に関する研究 第3報コレクティブハウス居住者の場合 日本建築学会大会学術講演梗概集 pp.1245~1246 1999
- 6) 関川千尋他：パリに住む日本人を通してみた、アパルトマンの管理システムの実状と評価 日本建築学会大会学術講演梗概集 pp.1353~1354 2008
- 7) 関川千尋：ウィーン市高齢者住宅“ハウスマルガレーテン”ー平成15年度住宅地事情海外視察に参加してー 雑誌『住宅』2003.11

## II. 「住生活の改善」について：〈一般的によく採りあげられるテーマである。〉

### 1. 住生活の改善の手順

- 1) 自分の生活を客観的に知る。→ 生活行為と空間の確認 一日(1440分)について：平日・休日別生活行為、行為者(誰と)、どこで、使用道具・設備等
- 2) ムダ・無理等のチェック。

「住生活を入れる空間をチェックする」上での原則

- ① 「人体寸法」に適合しているか?
- ② 「動作寸法」に適合しているか?
- ③ 「動線」は交わらず、最短距離になっているか?
- ④ その他社会慣習上、住み方の法則に合致した生活行動として適切であるか?



ベーシックな例：『食寝分離』<sup>5)</sup>の原則、『就寝分離』<sup>6)</sup>の原則

5) 寝る場所と食べる場所を分ける

6) 「寝方の法則」：原則として夫婦以外、12歳以上は、男女別寝。

一室就寝は2人まで。夫婦と6歳以下の子どもが同室で寝てもよい。

就寝用面積としては、3畳/人が基本。4.5畳→2人。6畳、8畳→2人 など。

「集中寝」、「過密寝」を避ける。このあたりから日本の戦後の最低居住水準が決められてきている。

3) 自分の合理的な生活空間を確認する。

2. 一日のみでなく、一週間、一ヶ月、4シーズン、年間生活が、自分に合ったものになっているか確認する。

3. 自分以外の家族、地域とのつながりを確認する。(生活介助者、LSAやガルディアン等との繋がりなど)。

4. 不都合なことがあれば、反省し、修正・選択し直す。

5. 改善を実行する。

### Ⅲ. 「高齢期の住み方演習」(のり、はさみ、色鉛筆、住宅平面図)

1. 自己の高齢期を想定してください。自己ひとり、高齢期の夫婦、あるいはこれら以外の現実に近い家族同居パターン等を設定し、高齢期の住み方を考えましょう。

2. 高齢期に住みたいと思う住まいを、別紙<sup>1)</sup>~<sup>4)</sup>の中から1つ選び、必要な家具を、切り取り、糊付け色づけをすることで、自己の住み方を示してみましよう。家具の貼り付けだけでは表現できない場合は、色づけ・文字での説明・自己で作った家具などを加えてもらって結構です。縮尺は1/50。追加家具などは、その寸法に近いものを選んでください。(演習課題<sup>1)</sup>~<sup>4)</sup>の説明 図面省略)

3. 住み方完成図の検討をする。各人に自己の住み方を皆の前で説明してもらい、フロアからの質問に答えてもらった。

4. 演習を振り返って：

講演後の演習を計画した段階では、各人の「高齢期の住まい」は、子どもなどと独立住宅での同居、高齢者住宅への居住、コレクティブハウスへの居住などの選択肢を準備していた。講演者には、演習受講者が、これまでの各人の住生活の経験上で、これらのいずれを選ぶのか、興味のあるところであった。

演習結果から、以下に演習者が示した特徴を示す。①、どの人も近辺に生活サポートシステムの準備されている集合住宅を、自己の高齢期の住宅としてえらび、自律した1人住まいを志向していた。②、神戸の震災経験に学ぶ高齢期の住み方として、コレクティブハウスなどを選ぶ演習者もいるだろうと考えていたが、この住み方は、玄関が一つという設計上の配慮が、タイト過ぎるとしてここでは敬遠された。「トラブルなどが起こった場合、その後の住生活が非常に窮屈になり逃げ場がない」というのがその理由であった。健康で自律できる時期には、個人を尊重した木目細かい集住への配慮の必要性を痛感した。

③、住宅に持ち込む家具としては、親しい来客を受け入れ生活する事のできるリビング・ダイニング用家具、図書の収納家具・仕事机・椅子を備えた空間、そしてベッドによる就寝用家具等が必要性の高い外せない家具となっていた。④、起居様式は、6/7人が椅子式であった。以上である。講演当事者も会場の反応から学び、改めて確認できることがあり面白かった。

以上

(文責：関川千尋)

創立60周年記念講座（2009年10月24日）（佐保会館にて）



関川千尋氏



会場風景

# 英字新聞、雑誌を読む会

---

---

## 第1回 英字新聞を読む会記録

---

---

日 時：H21年10月22日(木)、13:30~15:00

場 所：佐保会館 第一和室

参加者：吉田幸子、福田満代、鈴川良、久留島涼子

購読誌：Japan Times, Oct.11 "What's in a (Japanese) name?"

Time, Sep.14 "A Sea Change in Japanese Politics"

---

---

## 第2回 英字新聞を読む会記録

---

---

日 時：H21年11月26日(木)、13:30~15:00

場 所：佐保会館 第一和室 (使用中のため応接室使用)

参加者：吉田幸子、福田満代、鈴川良、久留島涼子

購読誌：Time, Nov. 30, 2009, "The Deference Debate."

In foreign policy, does making nice lead to making progress?

---

---

## 第3回 英字新聞を読む会記録

---

---

日 時：H21年12月3日(木)、13:30~15:00

場 所：佐保会館 第一和室

参加者：吉田幸子、鈴川良、貴志美代子、久留島涼子

購読誌：Japan Times, Dec, 2: Painter Ikuo Hirayama dies at 79.

: Japan Times SUNDAY, SEPTEMBER6, 2009: Keen: A life lived true to the words.